

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	障がい児者余暇生活支援センターじらふ・泉北		
○保護者評価実施期間	2024年 8月 1日		2024年 8月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2024年 8月 1日		2024年 8月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 10月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保護者のみなさまの満足度が高いこと…適切で専門的な支援やプログラム内容、全体的な満足度など。	・他のデイにはない支援方法を取り入れています。それを求めて利用希望をくださる保護者様も多くなりました。	・職員のスキルアップ。新しい職員が入っても、同じ支援を担保できるような勉強会や常勤職員のフォローの充実が求められます。
2	・毎月の写真付きおたよりや、SNSでの活動発信、公式LINEを用いての情報提供(研修、勉強会など)	・利用児さんの写真を掲載することで、自身のお子さんの様子や他児の様子、じらふでの活動をしていただけるようにしています。 ・保護者向けのイベントや勉強会などの情報提供も公式LINEから一斉送信しています。とにかく情報発信、を心がけています。	・SNSをより見やすく、また発信スキル(さまざまな機能を活用)を手に入れたいです。(ハッシュタグのつけ方や、ショート動画、リール動画など)
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・定期的に懇談を実施していますが、一部、なかなかお時間を取って頂けない保護者様がいること。(懇談日程調整のアンケートが一度もかえってこない)	保護者の就労状況などから、実施が難しい様子。	現在、送迎時などにサッと説明をしたり、聞き取りしたりしていますが、あきらめずに何度か日程調整の連絡をしてみたいと思います。現在、夜の時間帯や平日以外の時間帯も調整可能にし、アンケートにその旨を記載できるようにしています。
2	保護者同士のつながりの場ときょうだい児支援等のフォローアップ	利用児への支援が中心で、背景の家族支援、自宅での子育て相談やアドバイス等で手一杯になってしまうことが多い。家族によっては横のつながりが希薄かもと感じるご家庭もある。	昨年初めて、じらふ・系列の生活介護じ・系列の就B事業所合同での保護者会を行いました。放デイ利用保護者にとっては、学校卒業後の生活を想像したり、進路選択の参考にもなったようで、大変良かったという声を頂いています。こちらの家族交流会を継続実施していきたいと考えています。
3	地域の方たちとの交流	暑い時期が多く、なかなか外遊びに出る機会がへり、近所の子たちも集まる公園に遊びに行く機会がへりました。近隣の公園での遊びでは、よく地域の子どもたちと、遊具を共有したり、グラウンドを共有させてもらうことができていました。	月1度の近所のこども食堂への参加(土曜日)を継続しており、ボランティアさんにも声をかけてもらえることが増えました。継続参加していきたいと思っています。良い季節には積極的に散歩や公園にでかけ、地域資源を活用する機会を作ります。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		じらふ泉北		公表日		2024年 10月 15日		利用児童数		18		回収数		15	
		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応							
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない									
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	14			1	・移転してから忙しく行った事がないのですみません。								
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	12	1		2		運転のできるフルタイムパートを長く募集していますがなかなか見つかりません。引き続き人材募集をしています。							
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11			4	・2階へは行った事がないので見てみたいです。	いつでもご見学を受け入れております。懇談時に施設全体を見てもらえるようご案内します。							
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	14			1									
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	15												
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	14			1									
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	15												
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14			1									
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	15												
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	14	1											
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3	2	2	8	第1土曜日に「こども食堂」に昼食を食べに行く際に、交流が出来ることがありますが、そもそも地域的に子どもが少ない地域です。								
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	15												
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	15												
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	14			1									
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	15												
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14	1			・定期的な面談機会はあった方がよいと思います。								
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	15												
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	7	4	2	2		・じらふ系列の事業所(放デイ、生活介護、就労B)合同での家族会を実施したり、このたび「PECS同好会」が立ち上がったため、保護者支援や交流をごちらに移行しつつありますが、PECSユーザー以外の機会補償ができていません。							
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	15												

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	15					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	15				・子どもの様子がよくわかります。	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13			2		利用児が参加する避難訓練の様子などは連絡帳等を通じて報告していますが、その他訓練の実施報告はしていません。年に一度の防災ダイヤルの訓練はご家族にも参加要請をしています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	11			4		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	13			2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	14			1	・連絡をして頂き、すぐに対応して頂いています	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	15					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	14			1	・ともだちと会えるコトも楽しみにしている様子です	
	29	事業所の支援に満足していますか。	15				・子どもが笑顔でいるので満足しています。 イベントをして頂いているコトで満足しています。 ・参観があれば嬉しいです。	参観という考えが全くありませんでした。ご意見ありがたく頂戴し、検討したいと思いません。(動画など見てもらうなども)

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日		2024年 10月 15日			
じらふ泉北							
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		・1、2階、個室とあり自由に行き来が出来るので、ゆったりとしたスペースはあると思います。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	3		・スタッフの急なお休みの時以外は適切 ・スタッフが少ないと思うが、募集してもなかなか来ないので仕方ないと思う。 ・曜日によって利用者数が多い時など、若干少ないと思う時もある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	・階段の上り下りが不安定な利用者様にはスタッフが付き安全なサポートが出来ていると思います。 ・バリアフリー…現在の利用者さんの障害特性に応じたバリアフリーになっていると思う。	・構造化…今は滅多にないが、利用者さんがバニクあるいは不適切な行為に及んだ時のカムダウン、シエルター的な部屋があればなお良いと思う。 ・パーティションによる区切り、構造化が時にはもっと必要と感じることがある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		・1.2階で活動が出来、音が苦手となれば別階や別部屋で過ごせます。掃除やシア拭きを行っています。PCやビデオ等別々の部屋で使用できます。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		・活動により部屋を使える様になっています。 ・部屋が多く、パーティションもある。	・より安全なパーティションの購入が必要	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	1		・「広く」ではないかも知れない。わからない。 ・常勤職員での会議がベース	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4			開設当初(2013年)より保護者アンケートを実施してきています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・何か、伝えたい事があれば、責任者に話しています。	・非常勤面談も必要に応じて行っています。責任者として、現場職員が相談しやすい環境を整えているつもりです。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4			・じらふ泉北ではされていない様です。 ・法人として第三者評価を受けています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	4		・私は中々受けに行けていませんが、住吉の方(法人本体)で研修があったり、定期的に勉強会をじらふ内で行って頂いています。	非常勤職員は月1～2回(夏休みは除く)の勉強会を実施。常勤職員も法人内外の研修を月1以上受けています。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	1		・支援計画の職員への共有も随時行っています。 ・5領域に関するプログラムはまだ適切に公表されていません(個別支援計画のみ)	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6			ケース記録表に支援計画を貼り、常に全職員が計画を把握できるよう工夫しています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1		一般的なアセスメントシートを活用していますが、少し不十分と感じています。日々の記録からのアセスメントは積極的に情報収集しています。(会議の場などで)	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			移行支援は記入していません。(社会的現状や障がい特性、現状を踏まえて)	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5			主に常勤職員たちで立案しています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		と取り組まれています。(おやつ購入、外遊び) ・食べ物系ばかりでなく、工作も取り入れて	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		・個別スケジュールで、個々に合わせた課題を行い、集団で、ドライブや調理等関われる場を設けています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1	・パート(私)は時間が違う為、必ず打ち合わせは難しいですが、必要なことは伝えて頂いています。 ・必ず打ち合わせというより、絶対に(?)間違っではない支援の確認を必要に応じて、常勤さんから指示していただいている。	・前はやってた。夏休みなので忙しくて出来ない。 ・出勤開始時間が非常勤はバラバラのため、ノートにて共有、読んでから現場支援に入るようにしている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		・私は勤務時間が短い為、参加出来ませんが、ノートに記載して頂いているものを見させて頂いたり気になった事はメモを残したり伝えたりしています。 ・気づいたことをノートに書いて共有している。 ・終了後、個人記録の記入時に気づいた点、分からない点などを共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		・記録を取り、スタッフが共有出来ている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	5			「4つの活動」の具体を職員全員に知らせてはいませんが、毎月定例での調理活動、週末の買い物学習、日々の「余暇」の提供や要求の仕方、選択方法など支援しています。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		・PECSでの支援を行っている点(工夫している) ・買い物や活動時、絵、写真カードで選んでもらい、スタッフが左右で持つ場合、カードを持ち替え、例えば右手を選ぶようにならない様、何度か同じカード(2枚)で、持ち替えて選んでもらっている。(ドライブとじらふのカード) ・PECSが充実していると思う。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		児発管が参加しています。	
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1		主に他デイとの連携を図るよう努めています。基幹相談などもよく相談していますが、それ以外ではなかなか連携の機会を得ていません。
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	5			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4		・計画相談員さんから情報を貰っている。 ・必要に応じて、園に見学を依頼し訪問している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	1		支援の難しい方の引継ぎ資料は作成していますが、全員分は作成していません。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	1		児発センターとの支援の方針の相違などもあり、センター自体とは連携をとっていません。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	3	・第1土曜日の近くのこども食堂に昼食を食べに行く際に、交流が出来ることがある。 ・地域の公園で遊ぶとき、一緒に遊んだりおしゃべりすることがある。	・この点に関しては、以前の立地(原山台)では盛んだったと思うが、今は近くに小学校(地域)が無いのであまりなと思う。(あくまで自分の感覚) ・近所に子どもが少ない
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。		6		参画を積極的に依頼しているが断り続けられている。ここ何年か。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		・帰り送迎で本日の状況をお伝えし、出来た事等話し、何かあれば電話などで連絡しあえていると思います。	

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		プリントにて配布行ったり以前開所時間前に親子でのペアレントトレーニングの様な事を行い、職員も勉強になりました。 ・PECS同好会がある。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。		5		現在のところは支援計画での説明が中心です。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			懇談時期以外でも、随時相談の機会を設けています。連絡帳などにおいても、相談があれば細かくアドバイスを記入しています。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	4		・じらふ系列の事業所(放デイ、生活介護、就労B)合同での家族会を実施。	・保護者同士の交流はあるが、子ども同士の交流はないと思う。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		・じらふだより発行（例えばコラムでスタッフを知ってもらう）、日常の様子、写真、Facebookで活動、公式LINEで必要なやり取りが出来ている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			SNSでは、家族に一人ずつ同意書をもらっている。また名前は必ず消すようにしている。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		・PECSを練習しコミュニケーションが取れる様、自身の気持ちを伝えられる様児童さんとやり取りを行う。	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	2	・じらふ系列の事業所でのイベントには、じらふ利用者家族にお知らせしている。	・地域住民と関わる様なイベントはしていない。 ・今の立地上、以前（原山台）ほど住民招待など出来ないと思う。（住民は高齢者が殆どと思う。）	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		・火災、地震訓練は利用者様と一緒に行うことを実施しています。	・事故防止、防犯のマニュアルの訓練は実施していない。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		・スタッフの研修勉強会で行ったり、利用者含む全員で、スタッフは役割を決め行っている。 ・今期は初動訓練を実施した	・訓練は何度もしたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		・責任者が情報を伝えてくれるので、連絡帳に薬があるか等全スタッフが確認出来る。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		・お母様が連絡ノートよ利用する際に伝えてくださるので口にしない様（調理やおやつ作り）気を付けている。 ・別途、アレルギー表を事務所内に入りだしてパッと見て個人のアレルギーについて確認できるようにしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4			安全計画を立てているが、その他の訓練(避難訓練、防犯対策等)と重なっているようにも思いい、適切な訓練等ができていのかどうか分からない。
51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4				
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		・用紙記入分をスタッフで共有し、何に注意するかを見ることで、同じ事を繰り返さない様に行っている。 ・毎年年間総括をし、データをとり分析、勉強会を行っている。		

53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		・定期的に勉強会を行っています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	1	・身体拘束について(主にケガ防止で手をつかむ、などが多い)も検討しつつ、ABAに基づいた支援方針を考え、身体拘束をする場面を減らす支援をチームで検討しています。また統一した対応を取れるように会議などで共有するようにしています。	・左記の通りだが、もう少し検討していけると思う事例も多いです。